

評議員会議事録

日 時：2002年7月13日（土） 11時00分～15時35分

場 所：国立天文台（三鷹） 講義室

出席者：井上，太田，海部，加藤，小山，須藤，千田，高橋，福井，舞原，牧島，吉井，
家，池内，木下，高津，小杉，佐藤（勝），谷口，長谷川 以上20名

欠席者：岡村，柴田，高原，石黒，佐藤（修），中村，野本，林，松田，渡部 以上10名

有効委任状提出者：岡村，柴田，石黒，佐藤（修），野本，渡部 以上6名

他に理事会から田原理事長，郷田理事，大石理事，立松理事，東條事務長が出席した。

議事に先立ち，議長に舞原俊憲氏を，署名人に牧島一夫氏と太田耕司氏を選出した。

報 告

1. 前回議事録の確認（資料1）

郷田理事から前回議事録が報告され，承認された。

2. 2002年秋季年会について（資料2）

郷田理事より，2002年秋季年会に関して，現在までに把握している講演申込数（591件），
ポスター発表の件数（255件以上），および今回初めて試みる企画セッション（コンピーナー
制），

および年会会場，事前登録等についての報告があった。講演プログラムは現在，年会実行
委員会で編集作業中である。さらに，天文研連と天文学会が共催で特別セッションを二つ行う
（「法人化と天文学研究の将来」と「ALMA」）。各々の特別セッションに対しては，池内評議員
と長谷川評議員からそれぞれ補足説明が行われた。また，加藤評議員から公開講演の宣伝活動に
ついて報告があった。

3. 寄付金による学会創立100周年記念出版事業について郷田理事から以下の説明があった。

一ごとう書房の社長が亡くなり，ご遺族より出版費用を寄付するので主に大学院生向けの専門書の
出版を天文学会に行って欲しいとの打診があった。理事会では天文学会創立100周年記念出版事業
を

行うことを決定した。内容については天文学全体の近年の研究成果を網羅する内容が良いのではな
い

かとの議論をふまえ，この線に沿って当面理事会でどのような内容，巻構成，各巻の編集者にする
の

かを検討することとした。場合によっては，編集委員会といった小委員会を今後設ける可能性もあ
る。一

この報告をうけ，評議員会にも随時進行状況を報告して欲しいとの要望を理事会に行った。

4. 電力線搬送通信（PLC）への懸念表明について（資料3）

送ソに基づいて大石理事が意見書を総務大臣他に提出した旨，報告した。

5. 新委員会委員名簿（資料4）

2003年～2004年度天文学会各委員会委員候補案を郷田理事が報告した。

6. 学術会議会員候補者の選挙について

先ず，池内評議員より学術会議の体制について総務省のもとで懇談会ができ，そこで改革が検討
されている旨の報告があった。8月末までに中間まとめが出る予定である。また，学術会議内部で
も

検討され，アカデミー的な機能を含め，会員を2500名に増大する案も出されている。会員は任期
がなく，

やめるときに次の人を推薦する方式とする。ただ、学会が私的に推薦するような仕組みを作っておく

ことは可能である。このように検討中ではあるが、従来通りの選挙手続きはすすめてもらいたいと指示は

されている。

次に、郷田理事より、学会としての今後の学術会議会員候補者の選挙のスケジュールについて次のような報告があった。例年だと、1月中の評議員会に投票結果を諮り、2月中に学術会議に推薦しなくてはならない。そのため、時間的には天文月報8月号に告示を掲載するが、今回は池内評議員からの報告にあるように改革の議論中で、どのような変更があるかもしれないので、8月号での告示はとりやめとする。そして、9月25日（月報11月号原稿締め切り日）までの状況を

みて選挙公示を月報11月号に掲載する。そして、立候補・推薦の受付期間、ならびに投票期間を各々例年より若干短縮して、12月下旬に開票できるようにし、来年1月の評議員に推薦候補者を諮ることとする。

7. その他

(1) IAUアジア太平洋地域会議について

池内評議員より、7月2日～5日に開催されたIAUアジア太平洋地域会議について参加者数（462名）、

財政状況などの報告が行われた。また、次の開催地を決める常設委員会（14の国からの代表者で構成）を

つくることになり、池内評議員が座長となる。今回は、2005年にインドネシアで開催予定である。

議 題

1. 2003～2004年度新役員（理事・監事）名簿（資料5）

2003年～2004年度天文学会役員候補案および選挙管理委員会委員候補案を郷田理事が説明し、原案通り承認された。

2. 2003年度事業計画案について（資料6）

2003年度事業計画案を資料に基づいて郷田理事が説明し、質疑応答の後、一部修正の上承認された。

3. 2003年度収支予算案について（資料7）

2003年度収支予算案を資料に基づいて立松理事が説明し、質疑応答の後、原案通り承認された。学術交流費について高津評議員からの質問をきっかけとして補助のあり方について意見交換を行った。

学生の所属機関からの旅費補助がある場合は学会からの補助をする必要がないのではないかとの意見が

あり、これを支持する意見が出された。議長より、天文・天体物理若手の会代表となっている評議員に

対し、若手の会でも議論し、必要なら補助金に対する具体的な提案してほしいとの要請が行われた。

小杉評議員より、IAU京都総会記念基金内規の廃止を来年1月の評議員会で決定すべきとの指摘があった。

4. 評議員選挙施行細則改訂案について（資料8）

評議員総数を20名に削減することに伴う評議員選挙施行細則改訂案を郷田理事が説明した。質疑応答の後、

原案通り承認された。

5. 研究奨励賞内規改訂案について（資料9）

研究奨励賞の改定に関して理事会で検討した結果を郷田理事が報告し、受賞者数を若干名（上限は3名）に

増員すること、自薦も可とすることを反映する内規改定案の提示があった。また、総会における記念講演は

取りやめ、天文月報に授賞対象研究内容を書いた記事を必ず掲載するよう受賞者に依頼することとしたとの

報告もあった。人数を若干名に増やすことについては合意がとれたが、福井評議員から本検討のきっかけの

確認を求められたと共に、自薦の是非について問題提起があった。自薦を陽に認めると賞の性格を変えるの

ではないか、自薦するほどの積極的な研究者が望ましい、受賞資格を正会員に制限しなくても良いのではないかと、

自薦に限る競争的な賞を新たに作るべき、内規改定理由を明示するべき、などの意見が出され、理事会に持ち

帰って次回以降の評議員会に再度諮ることとなった。

6. 欧文報告論文賞内規の改訂案について（資料10）

PASJ賞の自薦を可能にする変更について郷田理事が説明を行った。研究奨励賞との関連もあり、自薦については再検討することとなった。なお、以上2件の賞の議論と関連して、以前からの課題になっていた「普及賞」については理事会としてこれ以上検討しないこととなったとの報告があった。

7. 会員名簿の有料化について

郷田理事が理事会での検討結果として、有料化はしないことにしたとの説明を行い、評議員会としてもその方針を確認した。なお、会員の電子メールアドレスを学会HPよりパスワード認証を経て

検索できるシステムを構築中であるとの報告もあった。

8. 秋季通常総会議題について（資料11）

郷田理事から秋季総会議題案が提示され、報告事項を追加の上承認された。

9. その他

(1) 非会員の年会登録料に関し、高津評議員から若手の会で行ったアンケート結果の報告があった。年会の場でポスドクなどの就職斡旋の場を設けてはどうかとの意見が出されたとの報告があった。これに関連して、学位取得予定者には口頭セッションの発表時間を長くすることも可能ではないかなどの意見交換が行われた。

(2) 民間の賞、研究助成への推薦を行う件に関し、これまでの実績をまとめた資料を郷田理事が紹介し、意見交換を行った。その結果、理事長が指名したWGを作る方向で理事会が検討することとなった。これに関連して研究奨励賞の受賞者数を増やすことに伴い、賞金を減額するのは問題ではないかとの意見を小杉評議員が述べ、意見交換が行われた。また、木下評議員から学会の賞の正式な英語名を制定してほしいとの要望が出され、理事会で検討することとなった。

(3) 秋の総会で開催する予定の法人化関連の特別セッションについて、学会からも世話人を出して欲しいとの要望が池内評議員から出された。

(4) 千田評議員から学会の会計年度がなぜ1月～12月になっているのかという質問があり、定款改訂の審議が始まった頃に理事であった小杉評議員が、年会の規模が大きくなり3月の春休み中と9月終わりもしくは10月の初めという大学が休みの時期でないと年会開催が困難となり、それにあわせて会計年度も変更したとの説明があった。

(5) 次回の評議員会の日程を2002年10月8日(火)と決定した。

議 長 舞原俊憲 印
署名人 牧島一夫 印
署名人 太田耕司 印